

はっぴい新聞

児童発達支援 放課後等デイサービス

10月号
2025 vol.67

児童発達支援

〈児童発達支援について〉

こんにちは。神無月になりました。田畑の実りも楽しみな季節になりましたね。今回は「ひまわり教室ってどんなところ?。」というお声をいただくこともあり、改めて児童発達支援の教室での流れについてお伝えしたいと思います。

ひまわり教室では未就学の児童を対象に、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を柱に、一人ひとりにあった支援を楽しく行っています。さらに小集団では、保育園や幼稚園などの集団のミニチュア版として、十分に指導員の目の行き届く規模のクラスで一つひとつ丁寧にサポートを受けながら活動することで、集団での過ごし方、お友だちとの関係づくりなどを学んでいきます。

〈児童発達支援の流れ〉

基本的に来所すると、身支度と手洗いやトイレなどを済ませます。そのあとは大まかに分けると、はじまりのあいさつ→運動→着席練習や起立練習→机上課題 終わりのあいさつ→自由遊び、の流れで1時間を過ごします。これは指導員とお子様の1対1の個別支援でも複数のお子様の小集団支援でも基本的には同じ流れとなります。



はじめのあいさつ



運動



着席練習



机上課題



終わりのあいさつ



自由遊び

お子さま一人ひとりの特性を理解し、できることや強みを引き出していく支援をしております。ご興味のある方、もっと詳しく説明をお聞きになりたい方はひまわり教室までご連絡ください。



Instagram



You Tube

放課後等デイサービス

◇防災・引き取り訓練

9月のSSTのテーマは防災でした。防災の知識を深める講義とあわせて、地震発生を想定した避難訓練・引き取り訓練も行いました。保護者の皆様、ご協力いただきありがとうございました。

避難訓練をすると、実際に体を動かしてやってみるの大切さがわかります。防災頭巾のかぶりかた一つとっても、前後を間違えたり、サイズ調整ができなかったり、色々なことがありました。職員も、お子さまと一緒に再確認する機会になりました。

ひまわり教室でおこなう防災は、基本的なことから大きく変わりません。毎年同じようなことをします。中には「どうしてまた?」「もう知っている」といった声も聞かれましたが、防災に関しては同じことを繰り返し、いざというときに体が動くようにしておかなければなりません。このようなことを説明すると、お子さまたちも真剣に取り組むことができました。起こってほしくない地震ですが、もしものときに安全を守れるよう今後も備えてまいります。

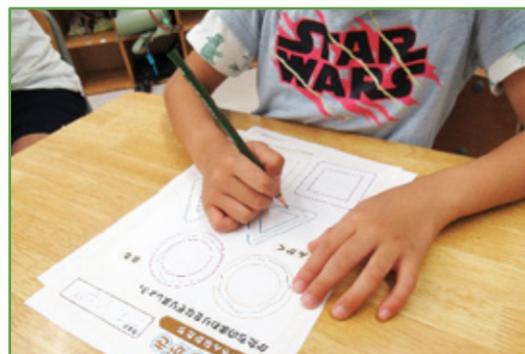


◇手先の運動・運筆

9月の机上課題は、手先の細かい運動をしました。お子さまそれぞれに合わせて、楽しみながらできる課題を設定しています。たとえば、文字をバランスのよい形や大きさで書くために、まずは正しい鉛筆の持ち方を指導員と一緒にやってみたり、「○」や「△」などの図形をゆっくりなぞり書きして見本通りに書く練習をしたりします。

S字フックをどんどんつなげていくゲーム(写真左上)は、触れると揺れてしまうためなかなかかけるのが難しいのですが、みんなすごく慎重に、粘り強く取り組んでいました。指示通りに指を動かすゲーム(写真右上)は、指ごとに異なる色のシールを貼り、言われた色の指で同じ色の丸をタップします。指の名前の理解がこれからのお子さまでもしっかりと取り組むことができました。他にもハサミやのりを使った工作や箸やトングを用いた課題などを行いました。

苦手意識をもってしまうと本来ならできることでも避けてしまうようになりますから、楽しく、少しの手助けがあれば達成できるくらいの難易度のプログラムを考えています。



子育てハート便



指導員 岸川

今年度も児童発達支援に勤務しております。子どもは3人おり、長男は幼稚園時代は行き渋る毎日、普通に行けるまでに一年半を要しました。当時の担任の先生が園長先生になり、長男を保育した経験は今にいかされてますとお話しいただきました。辛い思い出も良い思い出

になりました。はじめての子育て、主人の赴任先での不安な育児に私自身も先生方の寄り添いに私自身も先生方の寄り添いに救われた時代でした。今はお会いするみなさまに、私の経験が一助になればとの思いです。至らぬことが多々あると思いますが、これからよろしくお願いたします。

WISC-IV

知能検査

学校や園に配慮してほしいことがわかる



対象：5歳～16歳11ヶ月
料金：5,000円
公認心理師：金井